

## 平成 30 年度 第 10 回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会 場 平成 31 年 1 月 24 日（木）午後 7 時 00 分～9 時 00 分 市役所 205 会議室  
出席者 谷部議長、中村副議長、齋藤委員、長瀬委員、稲垣委員、松本委員、  
二ノ宮リム委員、吉村委員  
欠席者 佐伯委員、濱田委員  
事務局 吉村社会教育係長、来住野社会教育主事

### 1 開 会

＜配付資料＞

- 資料 1 1 月の社会教育関係諸行事の実施結果
- 資料 2 昭島市社会教育委員会議の取組みについて
- 資料 3 市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について
- 資料 4 第 30 期社会教育委員会議テーマについて（課題別）

- ・昭島市月間行事予定表 2 月
- ・生涯学習サポーター養成講座第 5 回チラシ

### 2 報 告

#### （1）1 月の社会教育関係諸行事の実施結果について（資料 1）

※事務局より、資料の説明

#### （2）都市社連協平成 30 年度社会教育委員活動記録について（資料 2）

※平成 30 年度社会教育委員活動記録「社会教育委員活動事例」に掲載する原稿について報告

#### （3）その他

議 長 1 月 7 日、東京大学社会教育演習として、東京大学の学生の皆さんが、昭島市公民館で調査を実施、その中間報告会があったので出席した。学生の多くが、若年層の活動の活性化について述べられていた。昭島市の場合、子ども育成課においては青少年を中心とした活動が展開されているので、広く見てもらえるとよいと思った。

### 3 議 題

#### （1）市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について（資料 3）

議 長 事務局から 2 月 9 日（土）に行う「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」の申し込み状況等について報告があったが、市役所の職員なども含まれるか。

事務局 他部署職員や、社会福祉協議会など、関係部署からの参加することになっている。活動報告をしてくださる方も、11 名（その後 14 名）となっている。グループ分けなどについては事務局で案を作成し、事前にお知らせをしたい。

委員 報告者でない聞き手の方は、どのような参加表明だったのか。

事務局 前回は参加くださった方が多い。報告者も新しい方が多い。意外と声をかけてみると、報告してくださるケースが多かった。「あきしま会議」は安心して話ができる場であるということが大事なので、皆様方のご協力をお願いしたい。

委員 アンケートに、「あきしま会議で紹介したい団体や活動があれば、紹介してください」と入れてはどうか。

議長 アンケートに盛り込んでおいてほしい。

## (2) 第30期社会教育委員会議のテーマについて (資料4)

委員 多くのキーワードが「ボランティアとは何か」につながっているように思う。ボランティアという言葉には日本の場合、社会奉仕や強制というイメージが付きまわっていると感じる。シチズンシップ（市民性、市民権）とは何かを同時に考える必要があるのではないか。「ボランティア」から想像するものは何かを大学生に問いかけたとき、小学生の時などに、ゴミ拾いなどを「させられた」ということが一番に上がってくる。本来のボランティアというのはそういうものではないはずだが、自分が社会をつくっていく、それを主体的にやっていくという延長にボランティアがあるという捉え直しができるとうい。現状は負担感が大きい。オリンピックに向けてもボランティアが注目されているが、これについてもいろいろな議論がある。これを機会にボランティアの捉え直しにつなげようという運動もあり、ボランティア自身が自分の成長や主体性を発揮できるボランティアの募集の仕方や動かし方を広げようとしている団体もある。

委員 ひとくちに「ボランティア」と言っても、自治会やPTAは組織があるところに役員として入らなければならないボランティアと、車人形の団体のように、伝統的なものを自ら伝えようとしているものとは、その意味は異なってくる。組織と個人的な活動との違いは面白いと思う。

委員 家庭教育の衰退ということに関して言えば、他市のある小中一貫校では、子どもたちと地域をつなげ、子どもたちにボランティアを通して家庭教育で習うべきことを地域から学ぶという取り組みをしているそうだ。地域と一緒にやるイベントなど、子どもたちがボランティアで参加することが普通になっていると聞いた。家庭教育の衰退を補うためと、自分の損得など関係のない子ども時代にボランティアの経験をさせることが大切なのではと感じた。そういう経験をしている子は、大人になっても自然にボランティアができるのではないだろうか。

委員 たぶんそれも決まったことをさせられるのではなく、自分も尊重され、楽しくできるボランティアの場が用意されているからだろう。

委員 各ボランティア活動のリーダーの学年が6年生だったり中学生だったりして、低学年の子どもたちは、各ボランティアリーダーに憧れるようだ。子どもたちがボランティアリーダーをやりたくなる仕組みをつくりだしている。

委員 既存の自治会等の問題では、他の地域でも同じ課題を抱えており、可能なものはアウトソーシング（外注・委託）して作業に係る役員の負担を減らし、イベントなどクリエ

イティブな活動に役員は力を注いで楽しもうというやり方をはじめているところもある。

委員 活動をするのは構わないが、名簿に名前が載ることを拒むというケースもあるようだ。名簿には載らないが、「絆隊」として把握をし、一人ひとりに都度お手伝いなどをお願いしている。それでも、人手は足りない。

委員 PTA もそういうやり方に移行している学校もあると聞く。

委員 ボランティア委員というものもあるそうだ。

委員 それぞれ自分の価値観で参加するという形のボランティアがあって、好きでのめりこめるからやるというものがあるが、日本では奉仕活動の意味合いが強く、日本はいろいろな関わり方があるものを「ボランティア」という言葉で括ってしまうと難しいものがあると思う。参加の仕方はさまざま。それぞれの価値観で濃さや重さが違う。深くボランティアを掘り下げてもいいのではと思った。

委員 日本のように「ボランティア」にもいろいろな意味があると、受け取り方もさまざまになってしまう。

委員 日本でのボランティアという言葉の使われ方の多くが、社会のために人を動員するという意味で使われている。

委員 阪神淡路大震災あたりから、ボランティアという言葉が広まった。

委員 そこから、ボランティアがポジティブな意味に変容してきたともいえる。

委員 社会的排除の解消も、それぞれの人が尊重し合って暮らしていけることを目指しているのだが、今出ているボランティアの問題にしても、それぞれの立場が尊重できていないということでもある。

議長 ボランティアは無償なのか。有償もあると聞いているが。

委員 ボランティアの原則の中に無償性というのはあるが、無償性は金銭的授受が全くないということではなくて、それを一番の目的にしないということ。非営利ということだ。無償でなければいけないということではない。多くの誤解がある。

議長 今後、社会教育委員会議のテーマについては、あきしま会議の中から得られるヒントも踏まえ、決めていきたいと思う。

### (3) その他

事務局 2月27日(水)平成30年度社会教育関係委員研修会があるのでお願いしたい。

議長 次回の会議の日程等を確認し、本日の会議は終了する。

#### 次回

2月14日(木) 午後7時より ムラリ(朝日町2-1-20)

3月18日(月) 午後7時より 市役所2階205会議室